



病いとともに生きるための意思決定支援

看護学科

常盤 文枝 教授

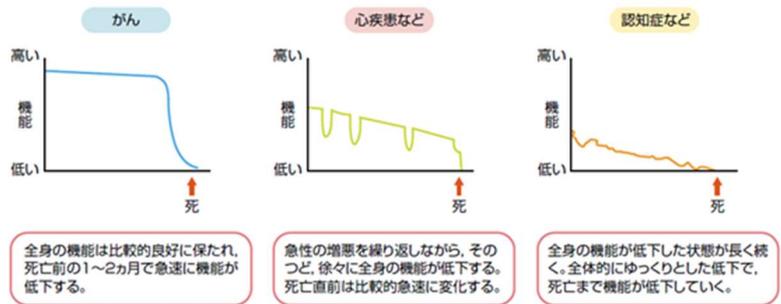
【研究分野】 慢性看護、循環器疾患看護
 【キーワード】 アドバンス・ケア・プランニング、意思決定支援、健康教育
 【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=111toki>



研究概要

病いの軌跡（病気になってからの行路）は、病気や個人の状況によって異なります。
 (HEART 2012 /5 Vol.2 No.5 p501- p511)

もしも病気になった時に、自分の希望を理解してもらうために、医療者、家族、親しい人とともに、情報を収集・吟味して、共に考える作業が必要です。



たとえば、リビングウィルの必要性に関する意識調査では、一般市民の70%が賛成しているが、実際に書面を作成している割合は5%以下です。これは、リビングウィルが単に生前遺言書と考えられていることが影響しています。

アドバンス・ケア・プランニング (Advance Care Planning : ACP) とは、人生の最終段階をどのように過ごしたいか、どのような治療を受けたいかについて、事前に患者と医療者が話し合い、自分の生き方を考えることです。しかし、これは特別なことではありません。普段から、病いとともに上手く生きるLive Wellためのコツを皆さんと一緒に考えます。

研究紹介

心不全患者と家族に対する包括的緩和ケアモデルの開発
 地域包括緩和ケアの充実にむけた家族への教育支援プログラムの開発

講座テーマ紹介

- ・ 地域住民の健康教育プログラム策定と実施支援
- ・ アドバンス・ケア・プランニングを考えるワークショップ
- ・ 地域での緩和ケアを考えるワークショップ
- ・ 「もしも病気になったら」準備ワークショップ

アピールポイントなど

健康教育やワークショップを通して、患者の意思尊重に関する社会的コンセンサスを高めることに貢献します。